

## 2) 産業廃棄物を原料とした燃料製造 - RPF製造

### ① 対策の概要

廃プラスチック類や紙くず等の産業廃棄物を、RPF (Refuse Paper and Plastic Fuel) の原料として有効利用することにより、これらの産業廃棄物を単純焼却する場合と比べて、温室効果ガス排出量を削減することができます。

RPFとは、マテリアルリサイクルが困難な状態の廃プラスチック類や紙くずを主原料とし、破碎後に成型加工して製造するペレット状の固形燃料であり、石炭やコークスの代替燃料として、製紙業やセメント製造業等で利用されています。

製造業の策定する環境自主行動計画では、RPF等の廃棄物を原料とした代替燃料の利用による石炭等の使用量削減を温室効果ガス排出削減対策として位置付けているケースがあり、本対策はこれらの製造業の環境自主行動計画にも貢献します。

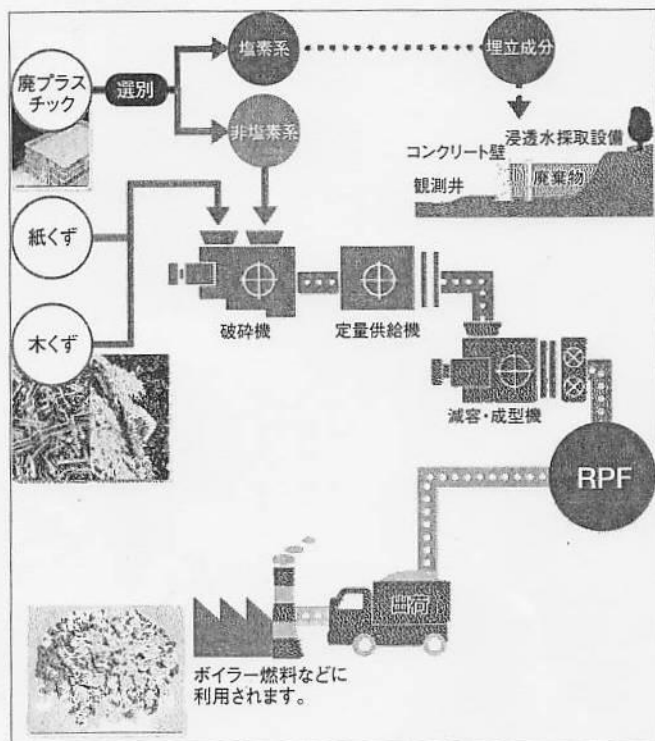
### ② 対策導入事例

#### 加山興業株式会社

愛知県豊川市南千両2-1

0533-89-0375 <http://www.kayama-k.co.jp/>

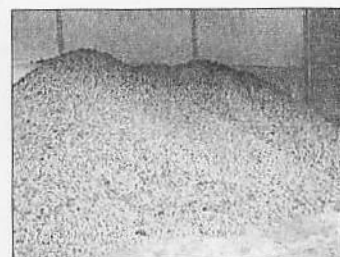
- ・ 製造業から排出される廃プラスチック類と、事業系一般廃棄物の紙くず及び木くずを主な原料として、約700 (t/月) のRPFを製造し、製紙会社にボイラ燃料として販売している。
- ・ 発生履歴の明らかな廃プラスチック類を使用しており、安定した品質で製造を行っている。このため、塩素ガスによるボイラ腐食やダイオキシン類の発生がほとんどなく、排ガス処理が容易となっている。
- ・ 紙くずについては、ビニール等が付着したマテリアルリサイクルが困難なものを原料としており、資源の効率的な循環利用に貢献している。
- ・ 今後も、RPF製造工程を増加する予定である。



RPF製造フロー概要



RPF (Refuse Paper and Plastic Fuel)



RPFのストック状況

出典：加山興業株式会社ホームページ及び同社提供資料